

## 中学校の実践報告について

中学校との連携では、社会や総合的な時間での活用が顕著である。

2008年度の協力校である長崎市立片淵中学校は、全学年が総合的な学習の時間に、何らかの形で博物館を活用した授業を行った。1年生は「地域を知る」をテーマに班ごとにコースとテーマを決めて現地見学や調べ学習をおこない3学期に劇形式で発表するというものである。2年生は「地域を学ぶ」をテーマに、地域の事業所や施設の職場体験をおこない、博物館もその中に含まれていた。3年生は「地域に参加する」をテーマに地域の方との交流の前に片淵の歴史を学ぶ取り組みで博物館を訪れた。全学年が博物館を利用することで、中学校教育の中で学校と当館がどういった連携できるのかを提示した実践例である。

また精道三川台中学・高等学校の小林正一先生は2008年度「吉村作治の新発見エジプト展」、2009年度「阿蘭陀とNIPPON展」、2010年度「実録・坂本龍馬展」、2011年度「孫文と梅屋庄吉展」という当館の企画展を活用した授業を展開した。

小林先生は学校での事前学習に活かすため、開幕前に展覧会の情報を把握したいという希望があり、当館からは資料画像や展覧会図面などをお渡している。企画展の開幕後には、生徒の見学当日に案内を担当する研究員が、同じお話しをしながら小林先生と一緒に事前に会場を回った。

生徒の見学を共に担当する教員と研究員が、生徒に見せたい資料や解説内容について事前に打ち合わせすることで、見学を通して生徒に何を学ばせたいのか共通のイメージを持つことができた。このような入念な事前準備は事前学習に反映されており、当日、生徒は目的意識を持って企画展の見学に臨む事ができていたように思う。

純心中学校の袖山道典先生は校外学習の時間を使い、全学年で博物館の見学をおこなった。1・2年生は「長崎の歴史」、3年生は「博物館や学芸員の仕事についても学ぶ機会」といったテーマに、当館と近隣のサント・ドミンゴ教会跡資料館をあわせて見学した。全学年で180名を超えていたため、見学前にガイダンスをおこない、見学はワークシートを用いての自由見学とした。そのため、ガイダンス内容の擦り合わせや、ワークシート、見学時間の調整などで事前に複数回打ち合わせをおこなっている。

中学校との連携においては、学習指導要領の改訂にともない、博物館を見学する授業時間の確保が難しくなっている。

「協力校、パートナーズプログラム」の実践では、カリキュラムの中で博物館を活用できる方法を考慮し、各学校の特徴に方針にそった工夫に満ちた実践をおこなっている。

(当館教育普及グループ 研究員 下田幹子)

## 中学校 実践一覧

学年	教科	テーマ	学校名	年度
1 年生	総合的な学習 の時間	地域を知る（長崎の伝統学習）	長崎市立片淵中学校	2008
2 年生	社会、歴史分 野	幕府が鎖国をおこなう、新しい学問がおこ る（国学・蘭学）	精道三川台中学・高等 学校	2009
		開国 ペリー来航～幕府が倒される	精道三川台中学・高等 学校	2010
		歴史文化博物館を知ろう	精道三川台中学校	2011
	総合的な学習 の時間	地域を学ぶ（職場体験学習）	長崎市立片淵中学校	2008/2009
3 年生	総合的な学習 の時間	地域に参加する（交流学习）	長崎市立片淵中学校	2008
		「地域学習」（実践案）	長崎市立桜馬場中学校	2008
全学年	社会・総合	「長崎の歴史を知る」	純心中学校	2010

1 年生	教科：総合的な学習 の時間	単元名：地域を知る（長崎の伝統学習）	9 月～2 月	4 5 時間
実践校：長崎市立片淵中学校			授業担当者：1 年生職員	
目  標	長崎の史跡や人物、伝統芸能を調査することを通して、郷土の伝統を理解する。 地域の伝統を知ること、社会の一員であることを知り自己の役割と責任を自覚させる。			
学習内容		時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連
1 「地域を知る学習」の意義を知り、コースを決定する。		2	○ 「地域を知る学習」のオリエンテーションを行い、学習の意義や目的について理解させるとともに、史跡・人物・伝統芸能のコースを選ばせる。	1
2 班編成とテーマを決める。		2	○ コース別に分かれ、班を編制後、班ごとに研究テーマを決定させる。 ○ テーマが決まらない班は、下調べを行いながら少しずつ決定する。	1・2
3 長崎歴史文化博物館の見学をおこなう。		2	○ 「オランダ人の見た幕末の長崎展」や「対馬展」、「くんち（常設展）」を学級ごとにローテーションで見学を行う。	1・2
4 テーマに従い班ごとに調査活動を行う。		2 0	○ インターネットやその他の資料等を使い調べる、資料が不足した場合は、県立図書館等も利用する。 ○ 伝統芸能については、実演を目指し練習を行う。（ビデオ等の活用）	1・2
5 発表会で調査結果を発表する。		1 8	○ 発表会を目指し準備、リハーサルを行う。 ○ 劇形式で、司会者が演技しながら進行する。	1・2・3
6 活動の評価をおこなう		1	○ワークシートにて反省、感想を書く	1・2・3
評  価  規  準	1 地域に関する内容に、興味関心を持ち進んで学習を行うことができたか。 （関心・意欲・態度）  2 さまざまな情報から分析し、学習内容や、経験したことの内容を理解できたか。 （知識理解）  3 地域の伝統を知ること社会の一員であることを知り、自己の役割と責任が自覚できたか。 （自己理解）			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- 10月の長崎歴史文化博物館の見学は、生徒にとってテーマを絞り込んでいく上で大変有意義なものとなった。
- 「オランダ人の見た幕末の長崎展」「対馬展」「くんち」をローテーションで見学し、さらに「長崎奉行所」を最後に見学させていただいたが、発表会の中での劇や芸能等にその成果が表れていた。
- 見学中、博物館のスタッフの方々に展示物の説明をして頂き、生徒の理解も深まったようである。

2 年生	教科：社会	単元名：幕府が鎖国をおこなう、 新しい学問がおこる（国学・蘭学）	1 0 月～1 1 月	5 時間
実践校：精道三川台中学・高等学校			授業担当者：小林正一	
目 標	「阿蘭陀とNIPPON」展を通して、教科書を通して学習した内容を基本としながら、互いの交流と そのことから生まれる生活や文化の変化を感じ取る。 この見学から今まで何気なく見ていたものにも「なぜ・どうして」を考え、調べたり、考察したりする 力を育てる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
幕府が鎖国をおこなう	1	以前に学習している貿易（ここでは、勘合貿易と朱 印船貿易）の内容や特色を確認しながら、生活や文 化から変化を感じ取ろうとしているか。	言葉として捉える傾 向が強いので、導入 段階で資料を有効活 用しておくべきだっ た。	
町人文化が花開く	1	町人中心に広がる文化の中から、今まで交流のあつ た国の影響を受けた部分を探そうとしているか。	元禄・化政文化を紹 介することと入試へ の出題頻度の高いも のへの解説に大部分 をとられた。	
新しい学問がおこる	1	蘭学を通して洋学へ広がっていく中で、オランダに ついて興味・関心を持たせたか。	事前に資料を集め、 見せておけばよかつ た。	
見学事前指導として 展示物一覧を配布し 自分が見てみたい展 示物を決める。 そのあと、場所ごと の資料を見せ、自分 が具体的にみたい物 を3点ほど考えさせる。	1	興味・関心を高めさせるための説明をしながら 資料を見せることができたか。	説明できる部分が少 なかったため、生徒 が選んだ物に偏りが 出てしまった。	
見学当日	1	自分が選んだチェックポイントに関する具体的な説 明からアピールポイントを見つけ出しているか。	時間に余裕を持たせ て、質問や振り返り ができるように計画 するべきだった。	
評 価 規 準	◎見学から新しいこと、気づいていないことを探し出そうとしているか。 ◎自分から「なぜ、どうして」を探し、それを解決するために解説を読んだり、 説明を聞き取ったりして、記録しているか。 ◎自分が見たことを人に伝えられるようにまとめようとしているか。			

## 学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



## 授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

今回で2回目となる長崎歴史文化博物館の見学は、授業で学習した内容に関連する展示物を見ることで知識や考える力の幅を広げるのにとっても有効である。

1時間ぐらいの見学時間内に、より具体的に特定の資料を深く考察できるようにするために、学芸員や職員の方に特定の展示物（またはエリア）にスポットを当てて説明していただいている。

事前に資料を見せて指導をした上で、相談しておいた説明を生徒たちに聞かせる。そのあと、自分がより深く考察したい展示物を自由に見学させるスタイルを取っている。

今回は人数が20名ほどだったが、40名ほどの場合は2グループに分け、具体的で専門的な説明と自由見学を交互に実施した。

専門の知識で裏打ちされた具体的な説明を頂くことで、「わかる喜び」「気づく喜び」をより強く体感させることができた。これからはいろんな展示会の機会を有効に活用させていただきたいと思う。

事後指導でレポートを提出するように指導した。

事前指導で自分が関心を持った展示物を「チェックポイント」の欄に記入し、それを見学当日の説明で確認する。説明をしていただきわかったことをメモして振り返りながら、まだ見ていない人や具体的な説明を聞いていない人に自分が伝えたいことを「アピールポイント」の欄に記入させた。

このレポートの内容に偏りが見られ参考にしていただけない結果となった。これは、ゴールを意識した指導が十分にできていなかったためであると考え。レポートの書き方を指導する必要があったかもしれない。

大変お世話になり、ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

2 年生	教科：社会	単元名：開国 ペリー来航～幕府が倒される	9 月～1 0 月	5時間
実践校：精道三川台中学・高等学校			授業担当者：小林正一	
目  標	教科書で学習した内容を基本に、開国から尊王攘夷運動が高まり、大政奉還へ至る流れを確認する。  「実録・坂本龍馬」展の見学から、関わる人々の考えや思いを感じ取る。  展示物の中から「なぜ・どうして」を見つけ、自分の考えを持つ。			
学習内容		時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連
黒船来航～不平等条約成立		1	黒船来航の目的と不平等条約成立までの流れの定着を図る。	展示品から多くを探ろうとしているか。
幕府への批判が高まる		1	大老井伊直弼の政策（安政の大獄）とそれに対する反応（桜田門外の変）の中で、尊王攘夷論が広がっていくことを理解させる。	
幕府が倒される		1	長州、薩摩を中心に展開する倒幕運動の流れを理解させる。	
見学事前指導		1	次ページ掲載のワークシートを使って、見学の準備を指導する。	
見学当日		1	学芸員から会議室で事前説明をいただき、貴重な資料の中から探してほしいポイントを伝えて見学開始	
評  価  規  準	会場でいただく実録坂本龍馬展のこどもガイド会場マップに記載されている 10 点の資料を全員共通の見学内容とした。 それに加えて学芸員と相談の上で決めた 3 つのテーマ 数多い龍馬の手紙の中で龍馬の印鑑が押されたものとその手紙に込められた龍馬の思い カステラレシピの書かれた資料とその目的 船中八策中の龍馬コード（〇〇〇の部分）に誰の名を書き入れるか を取り組ませた。 その中で  ◎見学から新しいこと、気づいていないことを探し出そうとしているか。 ◎自分から「なぜ、どうして」を探し、それを解決するために解説を読んだり、説明を聞き取ったりして、記録しているか。 ◎自分が見たことを人に伝えられるようにワークシートにまとめているか。			

## 学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

## 長崎歴史文化博物館 特別展「実録・坂本 龍馬 展」 見学ワークシート

精道三川台中学校 2年 番号（ ）氏名（ ）

予習編：調べてみよう

龍馬の生年月日	
龍馬の出身地と身分	
龍馬と親しかった人たち	
龍馬の特技	
龍馬と関わりの深い組織	
龍馬が活躍した場所	
龍馬を支えた人たち	
龍馬語録	

予習編：確認しておこう 空白を埋めて完成させよう

	いつ	誰が	どこで、どこに	何をした(された)
	1853年	ペリーが		
①	1854年		神奈川で	
②	1858年	ハリスが		
③		井伊直弼が		尊皇攘夷を主張する武士たちを処分した
④		井伊直弼が	江戸城 桜田門外で	
⑤	1863年	薩摩藩が		イギリスと戦争をした
⑥	1864年	長州藩が	( )	の艦隊と戦争をした
⑦		竜馬が	京都で	同盟の仲立ちをした
⑧	1867年	徳川慶喜が		政権を朝廷に返上した

見学編：探してみよう

ポイント	チェック	感想や気づいたこと
ポイント1		
ポイント2		
ポイント3		
ポイント4		
ポイント5		
ポイント6		
ポイント7		
ポイント8		
ポイント9		
ポイント10		

見学編：深めてみよう

テーマ	番号	自分の考え
龍馬の印鑑が押されている手紙の番号とその手紙に込められた思いについて		
カステラレシビの書かれた展示品番号とその目的		
船中八策中の龍馬コードに君なら誰を書き入れるか		

## 授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

今回3回目となる長崎歴史文化博物館の見学は、授業で学習した内容を深めることのできる展示物を見ることができた。それによって歴史の事実を確認して、より深く洞察するためのとても有効な機会となった。約1時間の見学時間内に、より具体的に特定の資料を深く考察できるようにするために、学芸員や職員の方と事前の相談に対応していただいた。特定の展示物（またはエリア）にスポットを当てて洞察できるように、助言をいただいた。

今回も、事前に資料を見せて指導をした上で、相談しておいた説明を学芸員にいただいた。そのあと、自分がより深く考察したい展示物を自由に見学させるスタイルを取った。

今回は20名だったが、専門の知識で裏打ちされた具体的な説明を頂くことで、「わかる喜び」「気づく喜び」をより強く体感させることができた。これからもいろんな展示会の機会を有効に活用させていただきたいと思う。

事後指導でワークシートを提出するように指導した。

事前指導で伝えた10個の展示物を「チェックポイント」の欄に記入し、それを見学当日に確認する。説明をしていただきわかったことをメモして、まだ見ていない人や具体的な説明を聞いていない人に自分で伝えられるように観察するように指導した。

このレポートの結果を一部報告したい。

テーマ1は自分の危険な立場を考え、お龍の安全や保護を心から願う龍馬の強い愛情が感じられるという内容のコメントが多かった。

テーマ2は「船を買うため」6名、「珍しいからその味を伝えたい、残したい」5名が多かった。

テーマ3は「勝海舟」8名、「桂小五郎（木戸孝允）」4名、「西郷隆盛」3名、「本人」1名などであった。

大変お世話になり、ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。



2 年生	教科：歴史分野	単元名：歴史文化博物館を知ろう	9 月末～10 月中	6 時間
実践校： 精道三川台中学校			授業担当者：小林正一	
目 標	・企画展「孫文と梅屋庄吉展」を通して、二人の生涯に触れ、その状況を理解する。 ・常設展を見学し、長崎の歴史や文化、生活を見つめ直す。 ・バックヤード（収蔵庫や古文書の修復作業）を見学・体験し、資料保存、復元の重要性を確認する。 ・じぶんが見つけた「知らなかったこと」を分かりやすく伝える。			
学習内容		時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連
企画展コース 常設展コース バックヤードコース の説明と班分け		1	ポイントを押さえた説明ができていますか。	
ワークシート配布 各見学の内容から担当決定 （図録やパンフレットから テーマや場所を相談しながら決める） 生徒からの質問に答えながら、注意事項も伝える。		1	「伝えること」を考えて、テーマを探しているか。	
見学当日 引率担当は下記のとおり 企画展コース（一瀬、教員） 常設展コース（下田、教員） バックヤードコース （加藤、小林）		1	指導してくださる方の説明を聞く態度はよかったか。 決めたテーマに関する資料を丁寧に調べたか。	
班ごとにワークシートを 元に発表用壁新聞作成		2	各自の原稿が分かりやすく伝わるようにまとめられているか。レイアウトや枠取りを相談して、決めているか。	
発表会		1	聞きやすく、分かりやすく伝えることができたか。	
評 価 規 準	コースごとに知らないこと、重要なことを探そうとしているか。 分かりやすく伝えるための努力や工夫を実行しているか。			

## 学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



## 授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

今回の企画展見学では、教科書で学習していない内容であったため、生徒の意欲・関心を高めにくかった。そこで、歴史的観点からの考察ではなく、孫文と梅屋庄吉という人間を見つめ、行動や業績などをできるだけ多面的に考察するように指導した。

教科書、事典、資料集や図録を活用して積極的に調べる生徒が多く、上手に分担して発表会も分かりやすく伝えるという目標は達成できたと思う。

上の写真のように、バックヤードコースで古文書に関わる仕事の一部を体験させていただいたことを大いに感謝している。

これからの課題として、年に1度の企画とせず継続観察をして、自分自身の成長を実感できるような見学にしていきたい。

コースごとに指導、説明をお願いしました歴史文化博物館の職員の皆様、ありがとうございました。

知ることの喜びを、一人でも多くの生徒に実感させることができるよう工夫していきますので、よろしくお願いします。

2 年 生	教科：総合的な学習 の時間	単元名：地域を学ぶ（職場体験学習）	9 月～2 月	5 7 時間
実践校：長崎市立片淵中学校		授業担当者：2 年生職員		
目  標	実際に働く体験を通して、望ましい職業観・労働観および職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる。			
学習内容		時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連
1 職場体験学習の意義を知り、体験場所を考える。		4	○ 職場体験学習のオリエンテーションを行い、体験学習の意義や目的について理解させるとともに、自分にあった事業所について考えさせる。	1
2 電話で、生徒自身が事業所へ体験学習の依頼を行う。		4	○ マニュアルに従い、班員が協力して電話のかけ方を工夫し、趣旨を事業所にわかりやすく説明し、必要事項を聞き逃さないように電話依頼を行う。	1・2
3 職業に関わる講話を聴き働くことの意義を考える。		4	○ 海上保安庁の保安官の方より、業務内容や進路・適性について講話を聴く。 ○ ハローワークの職員の方より、働くことの意義や注意点・態度について講話を聴く。	1・2
4 体験する職業や事業所について調べ学習を行う。		8	○ 体験する事業所や職業について、インターネットやその他の資料等を使い調べる、調査結果を画用紙にまとめる。	1・2
5 体験学習を行う。		26	○ 事前に事業所に行き、電話で打ち合わせを行わせる。また、生徒に対しては、事前指導をしっかり行い、態度や注意事項を理解させる。 ※歴史文化博物館では、講義や古文書の修復体験などの体験を行う	1
6 発表会で体験の様子を発表する。		11	○ プレゼンテーションソフトを使用し、グループごとに発表を行う。 ○ 発表の中で、感想や感謝の持ち、自分が成長したところを述べさせる。	1・2・3
評  価  規  準	1 グループの仲間と協力し、意欲的に体験学習や事業所への依頼、調べ学習を行うことができたか。（関心・意欲・態度）  2 体験する事業所の特色や職業につくまでの進路や適性について、計画的に調査を行い、体験の様子を的確に発表することができたか。（課題解決）  3 体験を通して、働くことの意義や自分の個性を理解し、進路の目標について考えることができたか。（自己理解）			

## 学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



## 授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

- 約100名の生徒が様々な事業所で体験活動を行った。うち、4名が歴史文化博物館で体験学習をさせていただいた。3日間の体験であったが、1日は休館日と重なり2日間の学習となってしまった。日程等を考えたい。
- 講義や古文書の修復体験、パンフレットや招待状の仕分けなどの体験をさせていただいた。
- 体験後は、学年で発表会を行い、博物館の方からいただいた写真データをもとに体験を発表した。
- 生徒は、体験活動を終え充実感を持つことができた。長崎歴史文化博物館のスタッフの方々には、大変感謝している。

2 年 生	教科：総合的な学習 の時間	単元名：地域を学ぶ（職場体験学習）	5 月～1 月	2 9 時間
実践校：長崎市立片淵中学校			授業担当者：2 年生職員	
目 標	・ 職場体験学習を通して、働く人々と接して、自分の生き方を考えさせる。 ・ 労働の中から、社会人としてのマナーやルールを学ばせる。 ・ 自分を支えてくれている地域や家族に感謝の気持ちを育む。 ・ 周りの人に頼らず、自分で考え、行動する力を身につけさせる。			
学習内容		時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連
1 職場体験学習の意義を知り、興味のある職種や将来希望する職種を考える。		2	○職種を大まかに分類させ、自分が現在最も必要とする職種を考えさせる。職種ごとのプレアンケートを実施する。	1
2 実際に自分が体験を行いたい職種を決定する。		2	○昨年度の職場体験学習の資料をもとに、自分が実際に体験してみたい職業を第3 希望まで挙げさせ、アンケートを行う。（昨年度と同じ職場でなくてもかまわない。） ○生徒のアンケートをもとに、7～8 月中に担当教師によって、職場体験学習の許可を得るために事業所へのアポイントを取る。（なるべくアンケートの第1 希望がかなうように、努める。）	1
3 体験学習を許可された職場から、自分の体験したい職場を決定する。		1	○受け入れ人数に限りがあるため、必ずしも生徒本人の意向に添うようにはならないが、できる限り本人の納得がいくような職場決定に努める。	1
4 職場への打ち合わせに行くためのアポイントをとる。		2	○電話での事業所への対応の仕方や、言葉遣いをしなければならない理由を十分に理解させ、練習を繰り返した後に、日時等を間違わぬように注意を促した。	1
5 職場への打ち合わせ		2	○実際に生徒自身が打ち合わせに行くため、事前に服装や言葉遣いなどの礼儀作法を十分に指導した。	1
6 職場体験学習事前指導		1	○職場体験学習前日を迎え、しおりなどの忘れ物がないように徹底指導を行う。	1
7 職場体験を行う。		1 8	○実際に職場体験学習を行う。担当教師は各事業所や公的機関等、お世話になる職場に挨拶に行くと共に、十分に生徒の様子を観察し、デジタルカメラを用いて、写真を記録しておく。	2. 3
8 職場体験学習事後指導		1	○各職場へ御礼状を書くことによって、己の体験学習を振り返る。	3
評 価 基 準	1 仲間と共に協力し、主体性を持って職種や職場を選択し、積極的に事務所等へのアポイントメント等の学習ができたか。（関心・意欲・態度） 2 毎日の職場での、体験学習を通して、社会人としてのマナーやルールを少しでも自分の身につけることができたか。（課題解決） 3 体験学習を終えて、働くことの意義や自分の個性を理解し、進路の目標について考えることができたか（自己理解）			



3 年生	教科：総合的な学習 の時間	単元名：地域に参加する（交流学习）	9 月～2 月	6 7 時間
実践校：長崎市立片淵中学校			授業担当者：3 年生職員	
目  標	地域の方との交流を通して、社会の一員であることを自覚させ、社会に役立つという成就感を味あわせる。			
学習内容		時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連
1 「地域との交流学习」の意義を知り、コースを決定する。		2	○ 「地域との交流学习」のオリエンテーションを行い、学習の意義や目的について理解させるとともに、高齢者・地域・外国人のコースを選ばせる。	1
2 交流会に向けて準備を行う。		2 0	○ コース別に分かれ、交流会（高齢者・地域・外国人を学校に招待する）の内容を検討し、準備を行わせる。	1・2
※ 長崎歴史文化博物館の見学をおこなう。 （地域コース40名）		2	※ 常設展の見学を行い、学芸員の方から長崎の古い地図を使い地域の歴史について説明していただく。	1・2
		2	※ 片淵中に隣接する城跡の現地見学を行う。	
4 交流会をおこなう。		3	○ 老人ホームに出向き交流をおこなう。 ○ 外国人を学校に招き交流会を行う。	1・2・3
5 発表会に向けて準備を行う。		3 7	○プレゼンテーションソフトを使用し、まとめる。 ○発表会を目指し準備、リハーサルを行う。	1・2・3
6 発表会で調査結果を発表する。		1	○ワークシートにて反省、感想を書く	1・2・3
評  価  規  準	1 自らの力で追求できる適切な課題を設定し、計画的に活動をすすめたか。  2 学習した内容から新たなことを洞察することができたか。  3 地域との交流を通して、社会の一員であることを自覚し、社会に役立つ成就感を味わうことができたか。			

## 学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



## 授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- 学校周辺の地域に、多くの城跡や石垣が点在しており、博物館の担当の方の講義は非常に参考になり、興味をひくものであった。担当の方には感謝したい。
- 後日、現地でのフィールドワークを行い、現地を確認し、生徒の多くが感動を覚えることができた。
- 来年度は、今回の学習を元に、どのように調査を深め、発展させるかを考えていきたい。



3 年 生	教科：総合的な学習 の時間	単元名：「地域学習」	1 0 月	8 時間
実践校：長崎市立桜馬場中学校（実践案）			授業担当者：学年担当職員	
目  標	・長崎の郷土史を学び、郷土への愛情を育てる。 ・グループ学習（班活動）や集団行動を通して、学び合う姿勢を養う。 ・地域・郷土において学んだ内容を整理し、発信させる。			
学習内容		時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連
1，活動概要の説明 班編制，学習テーマの 設定と発表形態		1	○活動内容の説明を行い，活動班を作り，班でテーマを設定する。（「さるくガイドマップ」に載せることを意識した話し合いをさせる） 発表形態については，パワーポイント，模造紙，OHP，寸劇等工夫させる。	社会科
2，事前指導と全体注意 博物館見学とレポート 作成		6	○人数が多いので，グループAは博物館へ，グループBは立山防空壕へむかい，2時間で交代させる。 館内やさるくガイドの方々に迷惑をかけないようにし，質問なども活発に行わせる。 ○午後からは，レポート作成なので，資料などを活用し，発表形態にそくしたものをつくらせる。 さるくガイドマップ用も同時につくらせる。	
3，レポート作成提出。		1	○最終まとめをさせる。	
評  価  規  準	○文章や絵図（資料）を使い調和のとれた「さるくガイドマップ」の作成を通して，郷土長崎について主体的・体験的に学ぶことができたか。（学び方・考え方） ○テーマをもとに，地域文化を理解し，発信しようとする工夫ができたか。（問題解決能力）			

全学年	教科：社会・総合	単元名：「長崎の歴史を知る」	7月～11月	6～8時間
実践校：純心中学校			授業担当者：袖山道典	
目標	①現在住んでいる長崎の地理，歴史を学び，見聞を深める。 ②歴史的遺構の価値を知る。 ③公共のマナーをわきまえ，団体行動を意識する。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1. 課題研究 （夏休み中）  中2，中3は，夏休みの課題として，課題研究「長崎を知る」に取り組む。	2・4	・課題の提示については，各自が自主的，主体的に調べられるよう，全員別の項目（くじで選んだ内容）とし，それぞれが調べ，課題を見つけ，それをまとめる形にする。 ・使用した資料は，本の場合は書籍名等，インターネットの場合はアドレスを記入し，出典を明示するよう，指示を出した。	社会科の評価に加える。	
2. 事前学習	1	・別紙のワークシートを用い，見学上の注意をおこなう。 ・前日学級担任よりも諸注意をする。	学校側でワークシートを作成。	
3. 当日 入館式 ①学芸員講話 ②常設展見学 ③サント・ドミンゴ教会跡資料館見学 退館式  ①～③は学年毎に行う。	3	・2010（平成22）年11月5日（土）に見学。 ・入館式，退館式は全員で参加。 ・各学年ごとに①学芸員講話，②長崎歴史文化博物館常設展見学，③サント・ドミンゴ教会跡資料館見学を実施。 ・1，2年は長崎の歴史を中心に，3年は加えて博物館や学芸員の仕事についても学ぶ内容とする。 ・公共の施設を見学することを念頭に置き，マナーなどについても各自心がけるようにする。	常設展見学については，各自ワークシートを記入しながら，見学を行う形とする。	
4. 事後学習		・ワークシートを完成し，感想まで記入し，学級担任に提出。		
評価 規 準	・長崎の地理や歴史を主体的に学ぼうとしたか。  ・自ら調べた内容と見学して理解した内容をまとめることができたか。  ・ワークシートをていねいに記入し，提出することができたか。  ・歴史的遺構の価値を学ぶことができたか。  ・公共のマナーをわきまえ，中学生として自覚を持った行動ができたか。			

## 学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



## 授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- ・本校としてはめずらしく校外での学習となったため、要領がつかめず、打ち合わせ等に苦労した。しかし周りの教員の協力を得ることができ、実り多い見学にすることができたのではないと思う。
- ・教師側からも生徒側からも感想は良好であった。日程が先に決まってしまう、常設展の見学のみになってしまったのが、心残りであった。カトリックの信者の生徒はサント・ドミンゴ教会跡資料館の内容に感動していた。生徒たちは歴史文化博物館にまた行ってみたいと感想を述べた。また今後も校外で楽しみながら学習する機会があることを期待しているようである。
- ・ワークシートについては見学を決めたときから作成しようと考えていた。中学生にふさわしい内容のワークシートづくりは、数か月考え苦心した。結局中学校の歴史教科書に加えて、高校日本史Bの内容で取り上げるものを中心に、著名な内容とした。ワークシートがあったことは、教員、生徒とも好評であった。ただ実際の見学を通してみると、ワークシートの内容が豊富であり、生徒は記入することで手いっぱい、見学に集中できなかったのではないかとの声も聞いた。またワークシートの記入に展示ケースを利用してしまい、係の方にご迷惑をおかけしてしまったのが申し訳なかった。
- ・生徒たちの行動として、集合～解散まで各自けじめをつけ、自覚を持って行動できたように思う。